

# 特定領域スペイン語教育の試み

——学校教育現場・行政分野でのコミュニケーション支援  
を目指して——

江 澤 照 美

## Un reto de la enseñanza del español con fines específicos para facilitar la comunicación en las escuelas y en el campo administrativo

EZAWA Terumi

### 1. はじめに

本稿は、特定領域スペイン語教育の一環として平成21年度前期に筆者が実施した学校教育現場及び行政分野でのコミュニケーション支援活動促進のための授業活動記録及び考察から成り立つ。スペイン語圏出身の中部・東海地方在住者へのコミュニケーション支援のニーズが年々高まる中で、愛知県立大学スペイン学科（注：当時）は平成19年度より特定領域スペイン語教育への取り組みを開始した。まず、「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究（医療分野）」（平成19年度愛知県立大学研究活性化推進費事業）により、教員4名（佐藤、堀田、小池、江澤）が昼間主2年生対象の「基礎演習」において初級レベルの医療スペイン語授業を実施した。翌20年度には同研究の第二段階として学校教育現場におけるコミュニケーション支援のための調査研究が採択されたが、筆者のみ他の研究テーマによる在外研究を目的とする長期出張で大学現場を一時的に離れたためにこの年度は実質的な活動ができないままに終わった<sup>1)</sup>。

平成21年度、すなわち今年度前期に再び「基礎演習」の担当者となった。今年度は上述の研究活性化推進事業に採択されなかったが、特定領域スペイン語教育を継続するため、担当者間の話し合いで学校教育分野に加えて行政分野でのコミュニケーション支援を念頭に置いた授業を試みることに

なった。そして半期の授業を無事終えたが、これは在日外国人に対するコミュニケーション支援活動の在り方を考える上で得難い経験となった。一昨年の初級レベル医療スペイン語授業の試み以上に試行錯誤を繰り返したようにも思うが、それは筆者の力量不足に加えて、この分野で参考になる具体的な授業活動報告や参考資料入手が容易ではないことにも起因する。そこで不完全で改善の余地があるのは重々承知の上で、今回の授業記録を研究ノートの形で残すことにした。以下にその授業活動の概要を記する。

## 2. 授業の概要

一昨年「基礎演習」の授業の中で実施した医療スペイン語授業の試みでは同時帯に2名の教員(小池教員と筆者)が別々のクラスを担当したが、語学系授業については筆者が、地域研究系の授業は小池教員が両方のクラス共通の教案を出した。語学系の授業は別々に行い、地域研究系の授業では2クラス合同授業を実施した。しかし、平成21年度は種々の事情から筆者担当授業は前期、小池教員の授業は後期に設置されることが決まり、前期に言語系の授業を筆者が、後期に小池教員が教育・行政分野で地域研究系の授業をそれぞれ実施することにした。なお、この授業は選択必修科目であるが、学生には可能な限り前期・後期両方の授業履修を勧めた。

授業計画をたてるにあたり1回1テーマ完結を目指したが、実際には予想以上に時間を要した時もあり、それには必ずしも成功していない。またシラバスも年度初めに配布するものから大幅に変更した。

### 2.1. スペイン学科で学ぶ意義について

- [概要] ・各学年で履修すべき科目について概略を説明
  - ・スペイン学科で学ぶことの意義を認識させる
  - ・「特定領域のスペイン語」について説明
- [目標] ・スペイン語を専攻する大学で学べることを知ってもらう
  - ・スペイン語圏だけではなく、日本国内でもスペイン語を使う機会が特に近年増えていることに気づかせる
- [資料] ・学科で現在取り組んでいるポルトガル語・スペイン語関係の医療コミュニケーション支援活動等の紹介
  - ・スペイン語医療語彙データ集計表(江澤 2008より)

外国語学部の学生は学んだ語学力を活用する場として外国を想定することが少なくない。しかし、近年高まりつつある在日外国人へのコミュニケーション支援活動の必要性のおかげで、国内でも語学力を発揮しうることが増えているという事実気づかせることにより、学生の学習モチベーション向上を目指す。中部・東海地方に今や数多くの日系人在住者がいることは知られているが、学生の多くは彼らと直接の接触をしたことがないので、在住外国人が現在直面している諸問題についてレクチャーをする必要がある。これは後期の授業でより深く学んでもらう予定で、筆者の授業では簡単な紹介にとどめている。スペイン語専攻学生として他人とのコミュニケーション能力を磨くことや、スペイン語圏について深い知識を身につけ、その社会や文化を理解することの重要性を説いた。

## 2.2. 資料収集

- [概要] ・論文・レポート執筆や口頭発表のために必要な手順を示す
  - ・資料（特に書籍）の探し方について概略を述べる
  - ・Bibliografíaの書き方について解説した
- [目標] ・資料の入手方法を知る
  - ・Bibliografíaの情報を読み取る
- [資料] ・筆者のある論文から Bibliografía 部分のみを使用
  - ・日本でスペイン語書籍が購入できる書店の紹介

研究・調査に必要な文献探しについて述べた。基礎演習の授業としては本来より多くの時間を費やすべきテーマであったかもしれない。Estudios Hispánicos 関係の資料を探す場合に時として直面する困難さについて述べたが、2年生前期が始まったばかりの段階ではまだこの種の本を探す必要性に迫られていないので、学生にはあまり実感がわかなかったかもしれない。

## 2.3. 学校教育分野のスペイン語(1)

- [概要] ・スペインで出版された移民の子弟向けスペイン語テキストの一部を出典を隠して提示し、どんな人を対象にしたテキストであるかを学生に考えさせる。またその判断の根拠を問う。
  - ・日本在住の外国人の視点から見た日本語独特の言語表現や習慣

をテーマとしたテキストを読む

- [目標]
- ・通常の留学生向けスペイン語テキストとは若干異なる移民子弟向けテキストの特性や言語を初歩から勉強しなければならない移民の年齢層には幅があることに気づかせる
  - ・スペイン語に適切な対訳語がない日本語表現があることを認識させる
- [資料]
- ・ Viana y Orte (2004) “*Amigos Español Lengua Extranjera*”
  - ・ Mizutani y Mizutani (1982) “*Notas de nihongo 1: para hablar y vivir en Japón*”

スペインで出版されている移民子弟向けのスペイン語学習テキストの内容を調べてみると興味深いことに気づく。一見スペイン語母語話者向け学習テキストと内容が同じように思えるが、テキストに出てくる少年少女の人種や国籍が多様で、移民ではない留学生対象の ELE テキストには見られない特徴がある。Viana y Orte (2004) では、スペイン語表現と同時に学習者の母語での対応語を書かせる欄を随所に設けていて、学習者のアイデンティティへの配慮が感じられる。スペイン語で実際に書いてみて言葉を覚えさせるという筆記力重視の方針も読み取れる。

読み書き能力は学校教育を受けないと習得しにくい傾向が一般的にあり、移民先の国で話される言語の読み書き能力の欠如は将来社会での活躍の機会を限定的なものにしてしまう。アメリカの一部の移民の例を挙げ、移民先の国で使用される言語での読み書き能力を習得することの重要性を説いた。

さらに、Viana y Orte (2004) では基本的にごく初歩的な表現を扱っているが(1から10の読み方や単語の発音、挨拶表現など)、同時に処方箋の空欄を埋めたり広告に書かれている内容を読み取ったりなど低学年児童のみを対象としているとは思えない練習問題が見られる。一冊のテキストの中に共存するこの内容の多様さを例として示し、初級レベルのスペイン語を学習する移民の年齢層の幅広さを学生に気づかせた。

次に用意した Mizutani y Mizutani (1982) は残念ながら時間不足により中途半端な扱いしかできなかったが、日本語とスペイン語の表現の違いについて学生に列挙させ、その知識の確認と参加者全員で知識を共有する予定であった。1つのテーマで1回完結形式にするつもりだったので、この

日の授業だけは後半を十分消化しきれないまま終えたが、以後もう少し時間に余裕を持たせることに決め、1 回完結形式には必ずしもこだわらないことにした。

## 2.4. 外国人向け広報

- [概要] ・この当時に国内で発生した新型インフルエンザ騒動を題材に取り上げた。外国人向け広報を行っているウェブサイトが発信した広報文のスペイン語版を読み、大意を理解した。
- ・関連語彙の確認
- [目標] ・スペイン語版の広報文の内容を理解する
- ・新型インフルエンザ関連の語彙を覚える
- [資料] ・神奈川県ウェブサイト（日本語版とスペイン語版）
- ・愛知県国際交流協会のウェブサイト（日本語版とスペイン語版）

緊急事態が発生した時に外国人向けに注意を喚起する広報用の文章は今回の授業の後半部分で取り上げる予定でいた。折しも新型インフルエンザの世界的大流行が懸念され、日本でも連日過熱気味のマスコミ報道が続く事態となり、学生の興味を十分ひきうるテーマとなったため、急遽授業で取り扱うことにした。危急の事態が発生している中で言葉がよくわからない外国人が事情をよく知らないままの状態におかれるのは危険なことであり、迅速に適切な情報をより多くの在日外国人居住者に知らせる必要について学生の認識を促した。

そのあと、日本語の他、英・中・韓・西・葡語の6カ国語対応をしている神奈川県及び愛知県国際交流協会のウェブサイトから新型インフルエンザに関連したスペイン語と日本語の文章両方を学生に提示し、まずスペイン語版の文の大意を把握し、次に一方の言語のある表現が他方の言語ではどのように表現されているかその対応の諸例を確認した。医療関係語彙の勉強にもなり、また最新の用語についてのスペイン語での表現を覚えるよい機会になったと思う。

## 2.5. 日本の教育事情と日本人について知る

- [概要] ・表題テーマについてスペイン語で書かれた文章を読む。6つの作業グループに分かれ、各グループにそれぞれ異なる内容の資

料を渡した。各グループは概略をまとめて発表する。

- ・ キーワードとなるスペイン語語彙とその訳語を対照する
- ・ 内容についての感想を述べる
- ・ まとめたものは提出させ、後日全員に結果を還元した

[目標] ・ 日本の学校教育の現状について、あるいは日本や日本人のありかたについての他者の見方や意見を知り、自分の意見を述べる

- [資料] ・ Matsui (1996) “*Facetas de Japón*” (日本あれこれ)
- ・ Urban Connections Inc. 編(1998) “*Vistas de Japón*”

Matsui (1996) より *El sistema educativo, Vida escolar, Plan de estudios* の3編を、Urban Connections Inc. 編(1998) より *Educación en Japón, Forma de pensar de los japoneses, Convivir con la gente japonesa* の3編をそれぞれ教材として選択した。内容はいずれも日本で義務教育を受けてきた学生にとっては特別目新しいものではなかったが、スペイン語での説明の仕方に新鮮味を感じた学生もいたようだ。

## 2.6. 行政サービス分野のスペイン語(1)

- [概要] ・ 在住外国人支援機関のウェブページの内容のスペイン語版を読み理解する。9つの作業グループに分かれ、各グループに割り当てられたコンテンツの概略を要約して皆の前で発表する。
- ・ キーワードとなるスペイン語の語彙とその訳語を列挙する
  - ・ まとめたものは提出させ、後日全員に結果を還元した

[目標] ・ 在日外国人を支援する地元の機関が実際に行っている活動の内容を知る

- [資料] ・ 名古屋国際センターのウェブページ (スペイン語版)

先々回の新型インフルエンザに関連した授業も行政サービス分野でのスペイン語教育に関連しているが、今回の授業はコミュニケーション支援活動を行っている地元の関係組織そのものにスポットを当てた。まず、そのような機関の存在を学生に知らしめた上でその具体的な活動内容を調べることで学生にコミュニケーション支援活動への理解を促した。この種の機関では市民ボランティアを募集していることが多く、自分の語学力を将来何らかの形で生かしたいと思う学生に活動実態を紹介する意味があると筆

者は考える。新型インフルエンザの流行状況やマスコミでの報道内容にもこの頃には変化が見られたので、名古屋国際センターが発した本件についての注意事項も再度確認して、先々回のテーマについての復習も兼ねた。

## 2.7. 学校教育分野のスペイン語(2)

- [概要] ・セルバンテス協会が編纂したスペイン語教育のための新・参考指導要綱「カリキュラム・プラン」(Instituto Cervantes(2006))を参考資料として、スペイン語における教育関係用語の具体的な内容や各語彙の難易度を知る。5つの作業グループに分かれ、各グループに調査が割り当てられたそれぞれの参照レベルに属する語彙を抽出し、その意味を調べてグループでまとめて提出する<sup>2)</sup>。
- ・後日、各グループの提出物は全員にその結果を還元した
- [目標] ・スペイン語で書かれた資料を参考にして、学校教育関係用語の具体例を知る
- ・各グループの調査結果を持ち寄ることで各語彙の難易度を知る
- [資料] ・Instituto Cervantes (2006) “*Plan Curricular del Instituto Cervantes : Niveles de referencia para el español*”

筆者は江澤 (2007) においてスペイン語の医療関係用語は具体的にどんな語彙を含むかを知るために、セルバンテス協会「カリキュラム・プラン」の第9章 *Nociones Especificas* の語彙目録から医療関係語彙を含みうると判断した分野の語彙を調査した。種々の理由から比較的簡単な調査しかできなかったが、それでも各語彙の難易度の片寄りについて知ることができた。

今回は学校教育関係用語に関して同様の調査を行い、同時に特殊領域スペイン語教育への応用を意図して、学校教育分野でのコミュニケーション支援活動に関心を持つ学生がまず覚えておくべき関連分野の語彙リストの作成を試みた。第9章の語彙目録のうち、6. *Educación* の下位区分6.1. から6.8. までの語彙のみを対象とした。当初、調査範囲をもう少し広げることとも検討したが、限られた授業時間内で学生に共同作業をさせることを考慮して、この分量にとどめた。また、テキストを作業グループの数だけ用意できないのでコピー配付資料を用意したが、この手間も予想以上に時間



がかかるという別の問題もあった。

A1とA2は含まれる語彙数が少なかったので1つの作業グループに調べさせることにして、A1+A2, B1, B2, C1, C2の計5グループに分けて調べさせた。それでもCの2つの作業グループの負担が大きかったようで、各グループに調べた語彙数の報告を求めたところ、A1-58, A2-52, B1-102, B2-175, C1-165, C2-145という結果が出た。「カリキュラム・プラン」の目録は中南米の語彙にも配慮しているとのことであるが<sup>3)</sup>、基本的にはスペイン中央・北部のカスティーリャ語圏の語法が念頭に置かれているので、中南米人が多数を占める在日外国人へのコミュニケーション支援のための言語教育にこの調査結果を利用する際は細心の注意が必要である。しかし、割り当てられたレベルの語彙の意味を皆で調べて確認することで、学生も学校教育関係の語彙にはどのようなものがあるかについてある程度のイメージはつかめたのではないかと思う。予想通り、2年生にはCレベルの語彙は大半が未知のものであり、調べるのは大変な作業であったようだ。

## 2.8. 学校教育分野のスペイン語(3)

- [概要] ・「カリキュラム・プラン」でAレベルの語彙について全員に抜き打ち語彙テストを実施
- ・日本で発行されている関連文献2点の目次や文型・文例に注目し、学校教育関係の語彙分類や特徴についてまとめる
- [目標] ・日本の教育関係者向けの資料を見て、学校教育関係用語が含まれるジャンルを知る
- ・学校教育関係用語に多い言語的特徴を知る
- [資料] ・小波津・坂東(2005)『教育現場のスペイン語』
- ・竹田(2004)『学校用語英語小事典〈第3版〉』

「カリキュラム・プラン」のA1, A2レベルの教育関係語彙は2年生には多少なりとも馴染みがあるらしいとわかったので、抜き打ち語彙テストを実施した。学生たちの多くは大体正解を出していたように思うが、先回の調査でこの分野の語彙も医療関係語彙ほどではなさそうだが、Cレベルの語彙がやはり少なくないらしいことがわかった。特定領域スペイン語教育では語彙力の強化を考慮した授業計画を練る必要があるようだ。



スペイン語の資料をもとに学校教育関連語彙にはどのような語があるかを学生に調べさせ、スペイン語の単語の具体例をその種の語彙として認知させたので、今度は視点を変えて、現在日本の教育現場でコミュニケーション支援のために活動する人向けに日本国内で編纂された文献を探した。そのような文献ではどんなジャンルの語彙が学校教育関係語彙とみなされているかを知ること、日本語の語彙リストをもとにスペイン語に直すという作業も学校現場でのコミュニケーション支援活動のための準備につながることを学生に認識させるのが目的である。

小波津・坂東（2005）はこの分野に関する貴重な日西語対照の参考文献である。また竹田（2004）は日英語対照で内容・構成が小波津・坂東（2005）と近似していた。この両書の目次構成を示して、学校教育関係語彙は教室用語の他、行事・連絡に関する表現、保健衛生に関する語、教師や生徒の親との間で想定しうる会話などいくつかのジャンルと関わる言語表現の中でまとめる必要があることに気づかせた。

次に、小波津・坂東（2005）の文例を示して、例文の文体・文型や読み仮名の有無などの言語形式・表記に注目させた。同書はその性格上、教師にも外国人生徒やその親にも利用できるような言語上の工夫がほどこされている。スペイン語の単語も対応する日本語の単語も共に読み仮名つきである。日本語の文章表現においては必要以上にひらがなを多用せず、日本人が目にして自然な文体に思える漢字仮名交じり文である。外国人読者の将来的な日本語の読み書き能力向上を願うならば例文も当然このような自然な文字表記であるべきと筆者は思う。

文の形式で目立つのは命令文、質問文、挨拶などの定型表現で、特に「～しなさい」という教育的指導表現が多用されている。指示のための様々な文型や語彙をスペイン語で覚える必要性について示唆した。

## 2.9. 学校教育分野のスペイン語(4)

- [概要]
- ・竹田（2004）を参考に、試験でよく使用される英語の典型的な指示文の特徴を知る
  - ・学生が今年度スペイン語の会話の授業で使用しているテキスト“*Gente*”の章から指示文の文型をピックアップし、作業グループでまとめて提出
  - ・後日、各グループの提出物は全員にその結果を還元した

- [目標] ・学校教育関係用語としての「指示」表現の理解と習得を目指す  
・スペイン語でよく使われる「指示」文型の習得は、日本でのコミュニケーション支援活動のみならず、将来のスペイン語圏留学時にも役立つことを気づかせる
- [資料] ・竹田 (2004) 『学校用語英語小事典〈第3版〉』  
・Martí Peris y Sans Baulenas (2004a) “*Gente 1*”, 同 (2004b) “*Gente 2*”

学校教育関係の表現形式には他者への指示を表すものが比較的多いので、スペイン語での指示の文型表現を学生に学ばせることを目指した。

竹田 (2004) は例文の豊富な日英語対照の学校教育用語集であるが、特に「試験でよく使用される英語の指示文」(pp. 284-314) という章では試験の問題文に使用される多様な文章形式が提示されている。いくつかの例文を紹介したあと、学生がスペイン語ネイティブ客員教員の授業で使用している語学総合テキスト“*Gente*”の特定の章の中で使用されている、学習者に対する指示構文をピックアップさせた。この活動も学生を12の作業グループに分けて共同作業でまとめることを求めた。各作業グループの担当章はそれぞれ異なり、提出されたものをまとめて次の授業で全員に配布し成果を共有した。筆者は学生が全員同じテキストを使用していると思いこんでいたが、ちょうど初級と中級のテキストの切り替え時期だったようで、同学年でも所属するクラスによって所持するテキストが“*Gente 1*”だったり“*Gente 2*”だったりすることが判明したので、作業グループごとに使用するテキストと章を筆者が割り当てた。

スペイン語のテキストで使用される典型的な指示表現を身につけておくと、この授業で目指している国内の教育分野でのコミュニケーション支援活動に役立つが、それだけではなく、将来スペイン語圏での語学の授業受講の際にも教師やテキスト・試験問題文の指示が容易に理解できるのでぜひとも覚えておくようにと学生に勧めた。実際、特定領域スペイン語である医療分野や学校教育分野の表現の習得は、在学中に海外留学を経験する可能性の高いスペイン語専攻学生にとって無駄にはならないはずと筆者は確信しているが、学生にその有益さを説くことで学習のモチベーション向上にもつながることを期待している。

## 2.10. 学校教育分野のポルトガル語

- [概要] ・日本の教育現場のブラジル人児童対応マニュアルとされる参考文献の目次部分を教材として、同書で設定されている言語使用コンテキストや表記上の配慮について調べる
- ・1グループあたり3名で日本人教師役・ブラジル人児童役・通訳役を順番に回したロールプレイを行う
- ・配布教材を参考にして、グループ作業によりスペイン語バージョンを作成し、提出
- ・後日、各グループの提出物は全員にその結果を還元した
- [目標] ・日本の学校教育現場を対象としたコミュニケーション支援用の参考文献の読み解き方、有効な活用法を身につける
- ・ポルトガル語とスペイン語の言語的類似性を学生に実感させ、ポルトガル語学習への意欲をかきたてる
- [資料] ・田所、伊藤、アイレス（2009）『ブラジル人児童と先生のためのポルトガル語コミュニケーション』

学校教育分野をテーマにした最後の活動の中にポルトガル語も組み入れるというアイデアを思いついた。筆者自身のポルトガル語の能力は低レベルである上、この年度ポルトガル語の授業は3年次から始まるので受講学生の中でポルトガル語の知識を持つ者の存在を確認してみたが予想していた通り既習者はほぼ皆無であった。それゆえ、この授業計画はやや冒険を伴うものであったが、学生どうしのロールプレイで日本語の対訳がついているポルトガル語の文章のカタカナ音読（発音の正確さはもちろん問わない）させることにより、スペイン語の文法知識を持っているとポルトガル語の文章の意味もある程度までは類推可能であることを学生に実感してもらいたかった。このような試みが将来学生たちのポルトガル語学習への動機付けに少しでも貢献することを狙った授業である。

田所他（2009）では、先の小波津・坂東（2005）、竹田（2004）同様、まず目次全体の構成に注目した。参考文献の目次から当該文献の概要や方針など様々な情報を読み取れることを学生に示唆した。英語以外の言語話者に対するコミュニケーション支援活動に利用できる文献はまだまだ数が限られていて、今後より多くの新刊が世に出されるよう切望するが、そのような貴重な資料を手にする読者にはぜひとも内容を分析して、より有効

な活用法を各自が考案してもらいたいと思っている。

学生も目次の読み方に少しは慣れてきたようで、ポルトガル語を正式に学習していないにも関わらず、ポルトガル語の言語特徴を指摘したり、田所他(2009)もこれまでの資料と同様に想定される読者別に表記を変えてあることなどに気づいたりするようになった。学校教育の場でのコミュニケーションで通常想定されるのは、教師と生徒間、もしくは教師と父兄間のやりとりであるが、同書では日本人児童とブラジル人児童のやりとりを想定した会話集も収録されているところが興味深い。この種のマニュアルが必要なものはや日本人教師だけではないという現実を反映しているであろう。

田所他(2009)の文例をもとに、学生たちには例によってグループ作業の割り当てで6種類のスペイン語バージョンを作成、提出させた。提出物はこれまでと同様にすべて筆者がとりまとめて、後日全員にその結果を還元した。今回の課題はスペイン語作文だったので、筆者が学生たちの文章を添削したのちに訂正箇所がわかりやすいようその痕跡を残したコピー文を返却した。学生たちには辞書の使用を許可していたが、提出されたスペイン語バージョンには誤用が少なからず見つかり、全員の提出物を再配布するというこれまでの返却方法では不十分と判断したのである。

この授業は特に準備から提出物返却までが大変手間も時間もかかったが、ポルトガル語とスペイン語両言語の単語の綴りや意味の類似性を実際に対比させて考えることで学生に実感してもらったようでそういう意味では実施した甲斐があったと思っている。

## 2.11. および2.12. 行政サービス分野のスペイン語(2)

〔概要〕 ・西村他(2009)の目次分析及び関連表現の確認

- ・京都府のウェブページのうち言語関係の分野を確認
- ・関連語彙・表現を知る
- ・短文の作文練習(横山(1992)より)

〔目標〕 ・行政サービス分野でコミュニケーション支援に関係するジャンルについて知る

〔資料〕 ・西村他(2009)『暮らしの日本語 指さし会話帳⑥ スペイン語版』

- ・横山(1992)『建設、製造、組み立て工場で働く外国人労働者

のにほんご会話 [日本語◆中国語・ポルトガル語・スペイン語]』

・多言語による府行政サービスの状況（平成19年11月28日）

京都府国際課 <http://www.pref.kyoto.jp/jinken/resources/1201070747687.pdf>

これは行政分野のスペイン語をメインテーマにした授業である。事前の準備不足のため、なかなか授業計画が立てられなかったが、今後の同分野関連の授業につなげるための試みとして実施した。筆者自身も行政サービス用語についてはまだまだ勉強不足の身なので、授業もその中身の薄さは否めないが、この分野については学生もよく知らなかったためか、それなりに興味を抱いた学生もいたことがのちに判明した。

まず、西村他（2009）の語彙リストに注目し、行政関係のスペイン語表現と日本語訳により、学生に関連表現を提示した。同書は旅行会話集としてヒットした各国語版の指さし会話帳シリーズの姉妹版、在日外国人向け日本語会話集の一冊であり、豊富なイラスト付きで親しみやすく、目次を見ると日本での生活全般に関わる単語を収録していることがわかる。学校教育関係語彙の参考文献としても使用可能である。

同書の目次を分析してみると、手続き関係の分野（外国人登録・届け出・税金、健保・年金・行政サービス、銀行・郵便局、料金の支払い）やトラブル関係（病院・体、災害・警察、役所）などに関連する語彙が多く収録されている<sup>4)</sup>。同書の文例を利用して、手続き関係のスペイン語表現の例について確認した。

京都府のウェブページも行政が用意しているスペイン語サービスの存在についての例として利用した。また、若干分野が外れているが、外国人労働者向け日本語単語・会話集である横山（1982）の中で送金手続きについて言及している文例を利用して学生に短い文の作文をさせた。

この分野の語彙は学校教育関係語彙よりも幾分バラエティに富んでいる印象がある。トラブル関係のような危急の場合に必要な語学には医療系の語彙の知識が要求される。緊急時に必要とされている語彙は手続き関係の語彙とは性質が異なるが、外国人にとっての必要性も高い。関連する参考文献が教育関係分野以上に見つかりにくいのが、行政分野のスペイン語については今後も調査を続け授業で取り扱いたいと思っている。

### 2.13. 期末評価に向けての準備(1)

- [概要] ・語彙テストの予告  
・行政サービス関係用語補足
- [目標] ・これまでの授業内容を整理し、学生自身にまとめさせる
- [資料] ・財団法人三重県国際交流財団のウェブページ  
(ウェブページ内のコンテンツ「教材・通知文例集等一覧」)

特定領域スペイン語教育として学校教育・行政サービス分野のスペイン語について知るための授業をこれまで展開してきたが、基本的には「基礎演習」の授業であるため、単なる語学の授業ではなく、受講生どうしで共同作業をさせ、その結果を集約して、全員で知識を共有するというスタイルを多くとってきた。従って、学期末の評価も学生がこの授業活動で得たものを文章化して提出してもらうことに重点を定めた。とはいえ、言語教育的な性格も持つ授業として進めてきた以上、多少なりとも関連する分野の語学知識もこの機会に身につけてほしいと思ったので、最終授業より前に行政サービス分野に関する語彙小テストを実施することにして、学生にも出題範囲を事前に告知した。

この回の参考資料としては三重県で在日外国人へのコミュニケーション支援活動の中心的な役割を担っている国際交流財団のウェブページを紹介した。また、そのコンテンツである「教材・通知文例集等一覧」も関係する団体へのリンクが貼られていて、非常に役立つページである。

### 2.14. 期末評価に向けての準備(2)

- [概要] ・語彙テスト実施  
・授業の総括  
・次週に書いて提出してもらう期末課題について説明  
・言語運用能力向上のためにすべきことを問う  
・コミュニケーション支援活動の中で特に興味を持った分野とその理由についてたずねた
- [目標] ・大学入学して以後の自らの語学学習についての内省をさせ、今後の言語運用能力向上のために取るべき方法を各人に見出させる  
・コミュニケーション支援活動についての学生各自の志向をとら

える

〔資料〕 ・特になし

語彙テストを実施した。受講した学生の得点は見事なぐらいバラバラであったが単なる勉強量の差だろうか。語彙力定着のためにも期間中にもう数回は小テストを実施すべきだったかというのが現在の筆者の反省点である。

今年度の授業で取り上げた分野について内容の再確認をしたあと、最終授業日となる次週に書いて提出してもらう期末課題用に持ち込みを許可するもの（授業時配布プリント、西和・和西辞典、参考資料）について説明した。

最後に自由に記述させる形で以下の3つの問いに無記名で答えてもらい提出を求めた。問いは以下の通り。

- ①言語運用能力向上のためにどんな勉強をしてきたか。
- ②今後どんな勉強をしたら語学力は伸びると思うか。
- ③もし、在日外国人の言語コミュニケーション支援活動に参加することになったらどんな分野にとりくんでみたいか。その理由は？

答えを回収して内容によって類似のものをまとめたが多かった回答を各問いあたり A4用紙1枚にまとめて翌週の最終授業時に全員に還元し、他の学生の回答内容の概略も公表した。

紙幅の関係で全部をここに再現できないが、①については文法の復習や辞書をひくなどの自主的な活動について説明したものが多かった。

②については、毎日続けることや積極的にどこかで使うようにするなどの能動的な活動を挙げた者が多く、回答から判断する限りでは、外国語上達のためにどんな勉強をすればいいのかまるでわからないという学生はほとんどいないようであった。外国語学部なのである意味当然のことかもしれないが。

③の問いへの回答内容は最も筆者にとって気になるところであったが、学生の興味は大別すると教育分野、職業や労働関係の分野、行政分野に分かれた。教育分野を挙げた学生が最も多く、その主たる理由としてはその活動の場が学生たちにとって馴染みのある学校という世界であることを指摘した回答が目立った。行政分野については今回の授業であまり詳しく取り上げることができなかったわりには学生の興味をひいたようで、とりわ



け緊急時の対策の必要性を認識した学生が少なからずいたことで筆者も講義で取り上げた意義はあったと思っている。

医療分野への取り組みを表明した学生が1名しかいなかったのは、今年度の授業で新インフルエンザ騒動を扱った以外に主たるテーマとして取り上げなかったこともあるが、医療関係語彙の難易度の高さを考えてみれば驚くべき結果ではなからう。前回筆者が実施した医療分野のスペイン語授業の試みにおいて、スペイン語専攻2年目の学生にこの分野の言語教育を行うのは少し無理があるかもしれないという感想を持った。今年度の半年間、教育・行政分野を対象とした特定領域スペイン語授業を試みて、この分野の教育が前回と同学年の学生にとっては医療分野のスペイン語教育よりはなじみやすく感じられたことがわかり、次年度以降の活動継続がより期待できる分野であるとの感触も持っている。

しかし、医療分野のスペイン語教育を今後完全にやめてしまうべきとは思っていない。筆者が教材として使用した小波津・坂東(2005)には健康に関する項目が登場する。また、行政サービス分野においてもスペイン語の医療関係語彙の知識を持つボランティアが現実にも求められている。医療関係語彙は確かに難易度の高い語が多いが、今後の特定領域スペイン語教育の中では多少なりとも考慮に入れるべき必要度の高い学習要素であることは間違いない。

## 2.15. 期末レポート課題提出

受講学生には最終授業の日に90分以内で期末レポートを作成し、提出することを義務づけた。事前に準備をするよう指示した内容とレポート課題の内容は以下の通り。

### [予告]

時間内に日本国内在住の外国人に対するコミュニケーション支援についてのレポートを作成してもらう。単独作業である。参照可能なのは

- 1) これまでに配布したプリントすべて
- 2) 西和・和西辞典
- 3) この4月から授業で取り上げた資料の現物1冊(のみ)  
なければネットから関連分野のサイトをプリントアウトしたものでよい。(ただし1サイト分)

- ※3) は要するに参考文献として著者名や文献名を、もしくは参考サイトとして URL アドレスを明記できるものであること。  
なお、必ずしもスペイン語のものである必要はない。

[レポート課題]

- ① 在日外国人が近年直面している問題のいくつかを指摘し、現在の日本でどんな支援活動が行われつつあるか、例をあげなさい。(具体的な団体の名前などもあげてよろしい) (目安：解答用紙10行以上)
- ② さらに、授業で取り上げたり、配布した教材の中で、スペイン語訳もしくは日本語訳のない文章を解答用紙3行分(目安)抜粋し、その下に自分で調べた対訳(日本語文は西訳、スペイン語文は和訳)をつけなさい。
- ③ 最後にこの授業でとりあげた諸問題についての感想を書きなさい。  
(目安：解答用紙5行以上)
- ④ レポートの最後にはこの課題を書くために必要とした資料のうち、書籍やサイトについては、その名前やサイトアドレスを参考文献の書き方の例などに倣って忘れずに付け加えてください。

さらに注意：辞書持ち込みにしているので、誤字脱字がなるべくないようにしてください

### 3. 最 後 に

履修登録した学生は計26名で全員が最後の課題を提出した。欠席が目立つ学生はおらず、全員がこの半期の授業の中で出された課題に取り組んだ。レポートの内容により多少評価に差をつけざるを得なかったが、1回実施した語彙テストも部分点として加え、結局全員が合格点を取り単位を取得した。

レポートの内容は先回のアンケート以上に多岐にわたっているので総括は困難であるが、グループ作業をさせてまとめたものを提出させ、後日それを一括して全員に還元することによって、受講生は自分が加わった作業グループで得た結果以上のものを身につけたと思わせる内容がレポートの随所に見られた。

今回、演習形式で学校教育及び行政サービス分野のスペイン語教育を試

みた。先述したように、後期に地域研究的活動を主体とした、しかし筆者による前期授業とは内容的に連関する別の基礎演習が開講されるため、筆者の授業ではこの分野の言語的な知識習得を目指した。参考文献が少ない分野であるため、授業計画をたてるのは容易ではなかったが、筆者には大変得るところの多い授業経験となった。

もちろん授業として完成されたものとは言い難い部分が多々あることは十分自覚している。コミュニケーション支援活動につながる継続的な語学教育システムの一部をなすものとして今後さらなる改善を試みたい。

### 注

- 1) 筆者がこの理由で平成20年度に日本国内での調査活動が遂行できなかったため、同年度の愛知県立大学教育・研究活性化推進費事業報告書「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究Ⅱ——学校教育現場におけるコミュニケーション支援のための調査研究——」には、共同研究者であるはずの筆者による報告は存在しない。本稿は特定領域スペイン語教育の授業構築のための研究ノートであるが、同時に上述事業の調査報告の一部と見なしていただければ幸いである。事情があったとはいえ、報告が遅れたことを大変遺憾に思う。
- 2) 「カリキュラム・プラン」は、ヨーロッパ共通参照枠の参照レベルをもとにセルバンテス協会がスペイン語教育・学習のために示したより具体的な指針の集大成と言える。したがって、「カリキュラム・プラン」における6つの参照レベルはヨーロッパ共通参照枠のそれに準ずるものと考えてよい。
- 3) García Santa Cecilia (2006: 15) を参照。
- 4) 当然のことであるが、著作権の問題があるので本授業で紹介した文献の教材としての使用量は必要最低限に留めている。授業で取り扱った部分以外の箇所にもコミュニケーション支援活動の参考になりうるどころが数多くある。しかし、そのすべてを列挙するのは今回の授業の主旨ではない。筆者の授業を受講した学生に役に立つ参考文献として本稿で引用している文献名を挙げるだけでは多くの学生にはその有益さが実感されにくいであろう。具体的に文献の一部分を引用して、そこから読み取れる情報を提示することにより、その参考文献の利用法の一例を示してきたつもりである。コミュニケーション支援に興味を持ち、今後本格的に取り組むつもり学生であれば、おそらくその書籍を購入するであろうと思うし、筆者が今回の授業で示した以上のことを参考文献から学び取ってくれるであろうと思う。

## 参考文献

- 江澤照美 (2007) 「特殊領域スペイン語の教育——医療スペイン語の語彙について」 SELE2007 (於 犬山国際ユースホテル) 口頭発表, 2007年8月30日 <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/org/sp/Kaseika2007/ezawa4.pdf>
- (2008) 「医療スペイン語教育の試み——基礎演習 (昼間主2年生) における実践報告」 『平成19年度 愛知県立大学 教育・研究活性化推進事業費による共同研究「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究 (医療分野)」 報告書 (研究分担者: 佐藤徳潤、堀田英夫、小池康弘、江澤照美) CD-ROM 版に収録 (PDF ファイル) <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/org/sp/Kaseika2007/ezawa1.pdf>
- García, Santa-Cecilia, Álvaro (2006) 'Introducción General' en "*Plan Curricular del Instituto Cervantes: Niveles de referencia para el español*", Tomo A1-A2, Editorial Biblioteca Nueva, Madrid, 11-45.
- Instituto Cervantes (2006) "*Plan Curricular del Instituto Cervantes : Niveles de referencia para el español*", 3 tomos, Editorial Biblioteca Nueva, Madrid.
- Martí Peris, Ernesto y Sans Baulenas, Neus (2004a) "*Gente 1*", Nueva edición, Libro del alumno, Difusión, Barcelona.
- (2004b) "*Gente 2*", Nueva edición, Libro del alumno, Difusión, Barcelona.
- Matsui, Kenji (1996) "*Facetas de Japón*" (日本あれこれ) Instituto Cultural Mexicano Japonés, A.C., The Japan Foundation, México, D.F.
- Mizutani, Osamu y Mizutani, Nobuko (1982) "*Notas de nihongo 1 : para hablar y vivir en Japón*", Versión española por Mesa, V. y Dávalos, L. A., The Japan Times, Ltd., Tokio.
- 西村秀人・谷本雅世・Matsumoto, Juan Alberto (2009) 『暮らしの日本語 指さし会話帳⑥ スペイン語版』、情報センター出版局、東京
- 小波津由美子・坂東省次編著 (2005) 『教育現場のスペイン語』 国際語学社、東京
- 佐藤徳潤他 (2009) 『平成20年度 愛知県立大学 教育・研究活性化推進事業費による共同研究「多文化共生に資する特定領域スペイン語&ポルトガル語教育のための基礎研究Ⅱ——学校教育現場におけるコミュニケーション支援のための調査研究——」 報告書 (研究代表者: 佐藤徳潤、堀田英夫、田中敬一、江澤照美、小池康弘、糸魚川美樹、神田直子、高阪香津美)
- 田所清克、伊藤奈希砂、アイレス、ペドロ (2009) 『ブラジル人児童と先生のためのポルトガル語コミュニケーション』 国際語学社、東京
- 竹田明彦 (2004) 『学校用語英語小事典〈第3版〉』 大修館書店、東京
- Urban Connections Inc. 編 (1998) "*Vistas de Japón*", Urban Connections Inc., Tokio.

Viana, Merc  y Orte, Pilar (2004) “*Amigos Espa ol Lengua Extranjera*”, Equipo Dylar, Madrid.

横山信子(1992)『建設、製造、組み立て工場で働く外国人労働者のにほんご会話 [日本語◆中国語・ポルトガル語・スペイン語]』三修社、東京

### 参考 web サイト

神奈川県ウェブサイト (日・英・中・韓・西・葡の6カ国語版)

<http://www.pref.kanagawa.jp/menu/page/04.html>

愛知県国際交流協会 (日・英・葡・西・中・韓の6カ国語版)

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/>

名古屋国際センターのHP (<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese>)

多言語による府行政サービスの状況 (平成19年11月28日) 京都府国際課

<http://www.pref.kyoto.jp/jinken/resources/1201070747687.pdf>

財団法人三重県国際交流財団 <http://www.mief.or.jp>

教材・通知文例集等一覧 <http://www.mief.or.jp/jp/education/kyozai.html>

江澤(2008)に関連する資料として

- ・「基礎演習」(2007年後期)の教材例

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/org/sp/Kaseika2007/ezawa2.pdf>

- ・「資料：「基礎演習」の授業が学生に残したもの」

教案：小池康弘、データ整理と文責：江澤照美

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/org/sp/Kaseika2007/ezawa3.pdf>